

4-1-10 周産期診療部

4-1-10-1 不妊診療科

1. 概要、特色

卵の発育には休日も祝日も存在しないため、妊娠成立のための最適なタイミングを見つけるためには休日に関係のない連続した卵胞発育モニターが必要である。当科の最大の特色は患者に最善の医療を提供するため、公的なセンターとしては初めて土日の休日や祭日に関係なく不妊総合診療ができる体制を整えたところにある。

また、不妊診療は一般の病院ならびに診療所ではとすると流れ作業的な、いかえれば患者様にとっては inconvenient な環境にあるのが我が国の現実である。当科はナショナルセンターとして我が国の不妊診療のスタンダードを確立すべく、不妊治療を望むカップルの診療に十分な時間をかけ、不妊診療にとってはもっとも大切なところのケアに配慮し診療を行うよう努力している。また、他の施設で治療を放棄されてしまったような難治性不妊症例についても、母性内科ならびに不育診療科、産科、婦人科、胎児診療科、遺伝診療科など当院の他科の協力を得ながら決して諦めることなく治療方法を提示し、カップルと相談しながらお互いに納得のいく診療が行えるように努力している。

2. 診療活動、研究活動

治療実績 2007. 4. 1～2008. 3. 31

外来初診患者		妊娠実績 2007. 1. 1-3. 31		手術実績	
平均年齢	35.9 歳	総数	236 人	総数	123 例
計	279 人	タイミング	114 人	腹腔鏡下手術	66 例
～24	1 人	人工授精	84 人	筋腫核出	}
25～29	23 人	体外受精	38 人	子宮内膜症	
30～34	65 人			卵巣嚢腫核出	
35～39	132 人			FT(卵管鏡下 卵管形成)	
40～44	56 人			など	
45～	2 人			子宮鏡下手術	19 例
				開腹手術	7 例
				その他	21 例

体外受精治療実績

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	周期数		
採卵件数	2	37	91	157	172	203	35歳未満	34	
							35歳以上	169	
conv.IVF					126	146	35歳未満	27	
							35歳以上	119	
ICSI (split/TESE含む)					46	57	35歳未満	7	
							35歳以上	50	
妊娠					33	31	36歳未満	14	妊娠率 41.18%
							36歳以上	17	
融解胚移植					62	79	35歳未満	25	10.05%
							35歳以上	54	
融解胚妊娠					6	14	35歳未満	6	24%
							35歳以上	8	15%

前記の治療実績が示すように、体外受精による症例数が年々増加している。また、2004年2月からは以前より実施していた体外受精・胚移植に加え顕微授精による治療も開始した。体外受精、顕微授精といった生殖補助医療技術(assisted reproductive technology, ART)を伴う治療は今後も増加していくと思われる。

しかし、妊娠例の多くはタイミング療法や人工授精で成立しており、体外受精だけでなく、手術療法など患者に最適な治療法を提供するように努めている。